

2019年度 事業報告書

(2019年4月1日～2020年3月31日)

特定非営利活動法人
アフリカ児童教育基金の会ACEF

定款1の医療援助事業

エンブ(タウン分院を含む)、エナ、マキマの3つの病院を運営。

エンブ病院は透析機器、MR、CT スキャンなどの高度医療の機器を導入するため、昨年度に引き続き、外観、内部ともに改装が継続中。エンブ病院(タウン分院を含む)だけでも、年間の来院数は約 65,000人で、今や信頼のおける私立病院としての知名度は高く、エンブ以外の近隣地域からも患者が来るようになっている。

エナ病院は、経営主体がエンブ病院下になった後も順調に稼働。特にエイズケアセンターは、エイズ患者への定期健診、処方、2018年からは USAID から支援を受け、患者のカウンセリングの他にエイズ予防啓蒙活動と、後出の患者宅の訪問ケアを実施。その長年の功績が認められ、2019年エンブ郡知事より、最優秀エイズケア機関として表彰された。また2019年度は医療系学生のボランティア希望者が多く訪問し、カウンセラーからケニアでのエイズの現状を聞き、直接患者から話を聞く貴重な経験を提供了。

マキマ地区のマキマ分院は、これまではソーラー発電での蓄電による電気供給だったが、以前行ったクラウドファンディングにより、電気供給、井戸の汲みあげも電動式に変更し、設備面でも整っている。

毎年恒例になった、エイズ疾患やガン検診のメディカルキャンプ(住民への無料診療)も3つの病院で、時期をわけて引き続き実施。遠くからこの診療のために数時間歩いて受診する患者もあった。

定款2の医療講習会開催事業

エナ病院エイズケアセンターでは、2019年6月より医療法人社団元志会の支援を得て、来院の必要があるのに、経済的、または身体的に困難で診察に来れない患者宅への訪問ケア(診察、投薬、カウンセリング、栄養指導など)を月20回程度実施。

訪問ケアの際は住民へのエイズ予防講習会を実施。多くの住民にエイズ防止の啓蒙と共に、今後も周りの住民のエイズ感染者への偏見や差別をなくすための、正しいエイズの知識を教育。

また、日本企業、有志より巡回診療用車両の支援を受け、しばらく中断していた無医村地区への巡回診療を再開し、エンブ病院より期限切れ間近の薬を提供してもらい配布。この車両はエイズ患者宅への訪問ケアにも使用。今年は医療系学生ボランティアが急増し、彼らも巡回診療や訪問ケア同行し、ケニアのリアルな医療現場を体験。将来の医療従事者へ貴重な経験を享受した。

定款3の職業技術訓練

職業訓練校は、主に経済的や諸事情により義務教育(6歳から13歳までの8年制)を修了出来なかった青年及び子女を対象に、8つのコース(自動車整備、板金塗装、金属加工、家具木工、洋裁服飾、美容、コンピューター技術、自動車免許取得)に分けて、将来の雇用を促進する教育事業として当会が運営。ケニア政府公認校に指定されて8年。エンブ郡から教員派遣などを受けて自立運営している。

しかし、近年、学生が減少傾向にあることから、独自の特色を出すため、2018年より日本向け商品を作成している洋裁師に指導してもらう時間を設け、他の学校との差別化を図っている。

また、同じケニアで活動する NPO 法人が支援する事業とコラボし、学校の長期休暇を利用し、年2～3回、当職業訓練所で小学校教師や洋裁教師の再トレーニングプログラムも継続して実施中。

定款4の教育支援

当会スタッフの子供たちのために始めた、義務教育を行う小学校(7歳から14歳までの8年制)は、年末に行われる全国統一高校入学試験(日本のセンター試験のような試験で、この成績により高校が振り分けられる)では、今年もエンブ郡450校中、第1位を獲得。首位を8年連続で独占。さらにエンブ郡の女子の首位者も輩出。また受験者108万人中、500点満点中400点以上を獲得したのは1%未満だったが、当校からはその400点以上獲得した生徒も3人輩出し、自他ともに認める国内でも上位校となり、将来、ケニアを背負って立つ優秀な人材を育成している。

2019年1月から始まった5教科だけではなく、副教科の充実を謳った新教育制度も導入。

生徒数 保育所、幼稚園約50人 小学校約500名

ケニア政府の教育システム改革により、小学校を6年制にし、新たに中学3年制を導入。高校も3年制にすることが決まっており、その対応のため、教室、男子寮、女子寮の改装。新女子寮のお披露目直後に新型コロナウイルスの影響で国内の全教育機関が休校になり、学校再開の目途はたっていない。

「エイズ感染孤児」を対象にした、子供たちの生活向上と教育支援事業を実施するための ACEF ジャンプ&スマイルセンターの運営も継続。近隣の2つの小学校に分かれて通学。

エナ・エイズケアセンターと連携して健康管理を行い、子供たちに教育の場を提供し、せっかく生まれた人生の生きる道を探り、絵画や音楽、ダンス、スポーツなど適性を生かした道とともに支援している。

今年度は3人の小学校卒業生を輩出し、現在高校生が10名。引き続き、高校教育の支援を行っている。小学生23名。高校生は普段、各校の寮で生活しており、休みの期間には孤児院へ帰省してくる。現在は新型コロナウイルスで休校のため、一旦、保護者宅へ帰している。

また、エイズ孤児施設の経済的自立のため、有機農法による農園を整備し、家畜の世話をし、自給自足の生活を目指す。また、前出のクラウドファンディングにより、電気と井戸の供給と併せて、自立できる道を確認するために、ダチョウ園を運営する計画が進行しており、併せて鶏や小動物も飼育し、地域の小学校に校外学習で訪問してもらえるような施設の開設を目指している。

定款5の有機薬剤及び有機肥料の製造と普及の推進

農業立国を目指すケニア国家の国策を支援するため、従来から有毒で高価な化学肥料や、化学農薬に依存してきた農業栽培方式から、安全で安価な有機微生物を活用した「有機肥料及び農作物の病害虫を抑制」ための、自然再生型の農業栽培の転換を目的として、貧しい農民への「有機肥料の知識と技術」を教育する「農民講習会」と「実習農場」において有機栽培の実習する教育を実施。

有機農業トレーニングセンターでは、後出のリサイクルシステム構築のため、農業従事者・若者を対象に、『MOTTAINAI』を合言葉にしたセミナーを実施。

定款6 環境保全に係る事業

啓発人材の育成と、環境保全活動

JICA 草の根事業で育成したリーダーたちと、引き続き事業で派生した市民活動として発展させている。JICA 事業実施時より活動人数は減少したが、この活動はエンブ郡にも認められ、エンブ郡で行わる農業イベントには、毎年、環境啓発員として採用されている。

また、環境保全に興味があり意欲のある学生グループなどにも呼びかけ、公共イベントなどで散らかるゴミを拾いながら、環境保全について話す機会を得て、年に1度実施しているクリーンナップデイには、今年度は近隣大学、短大、高校などのグループも参加し、知事が開催宣言をするなど、メディアでも取り上げられるエンブで一大環境イベントとして認知されている。

少しずつ近隣住民にも認知されてきたゴミの分別回収では、生ゴミとプラスチックやカン・ビンなどの分別作業をするためのステーションを設置し、地域環境団体 Utamaduni をサポート。若年層の雇用支援として、分別作業に地域の若者を雇用。分別したプラスチック、カン・ビンは業者に引き取ってもらった収益は、Utamaduni の運営資金とする。

また、ケニア国内ではレジ袋の製造、使用、持ち込みを禁止する条例が施行されたことを受け、ケニア国内向けのエコバック普及活動をする地域団体 Utamaduni の活動をサポート。スーパーへの営業、セミナー、研修会などでアメニティグッズ、キャリティーグッズとして活用してもらえるように、政府機関や国際機関にアプローチ。同時に、日本国内向けのアフリカ布バックの普及もサポート。デザイン、縫製のアドバイス、販路調査、出店先営業、委託販売などもサポート。

「学校の森」造成事業

これまで支援を受けて実施した、小学校、高校を対象とした「学校の森」のフォローアップ。

地球温暖化の抑制を実施するため、近隣の森林を伐採し、燃料に使用しなくてもいいよう、近隣住民を雇用し、植林の意義を指導しながらマキマ敷地内の植林を実施している。

乾燥地に強く、家具材に適したムカウは、これまでは、種の取り出しや発芽、育苗が難しかったが、JICA の協力により、JIFPRO (国際緑化推進センター) と KEFRI (ケニア森林局) の連携し、発芽促進技術を開発されたことにより、ACEF でもムカウを普及するセミナーを過去に何度も実施。現在も、エイズ孤児院と病院のあるマキマで育成中。これは、JICA の依頼により、このムカウ種のデータを採るための検定林を育成する農地を ACEF が提供し、データを取り終えた2年後には、そのムカウ種は提供して頂けることになっている。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	支出額
定款① 医療援助活動	1) 病院運営自体は自立しているため、事業費支出はなし。	年中無休 24時間対応	・エンブ郡内	0円
	2) エイズ患者宅への訪問ケア 無医村地区への巡回診療	毎月8～10回 2020/2/14～2/18	・エンブ郡内 ・サンプル郡内 ・ロイトキトク村	7,950,039円
定款② 医療講習会開催事業	上記①～②の訪問ケア&巡回診療と同時に実施。費用は①と合算。	同上	エンブ郡内 サンプル郡内 ロイトキトク村	0円
定款③ 各種の職業訓練学校の運営事業	政府認定の職業訓練学校になったことにより、事業費支出なし			0円
定款④ 教育支援事業	1) 貧しい家庭の子供と孤児を対象にした義務教育(7歳から14歳までの8年制)の小学校及び寄宿舎の運営、エイズ孤児施設の運営	年間を通して	エンブ郡マキマ村	4,758,161円
	2) 小学校校舎増築	2019/11～2020/2	エンブ郡マジンボ地区	1,759,636円
定款⑤ 有機薬剤及び有機肥料の普及啓発事業	⑥事業に含まれるため、事業費支出なし	適時に実施	エンブ郡内の農民	0円
定款⑥ 環境保全に係る事業	1) 過去の「学校の森」フォローアップ	適時に実施	エンブ郡内の小学校、高校	7,067,841円
	2) 環境保全事業	適時に実施	エンブ郡内	
	3) 農場開墾&井戸掘削、設置	適時に実施	エンブ郡内	
	4) 環境人材育成&職業支援	適時に実施	エンブ郡内	
事業実施経費合計				21,535,677円

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	支出額
定款① 有機薬剤及び有機肥料の販売事業	この事業は実施していません。			0千円